

2023年度 決算説明会資料

【中期経営計画 前半3年の振り返り】

2024年5月16日

株式会社 **きんでん**

東証プライム : 1944

Kinden

事業戦略

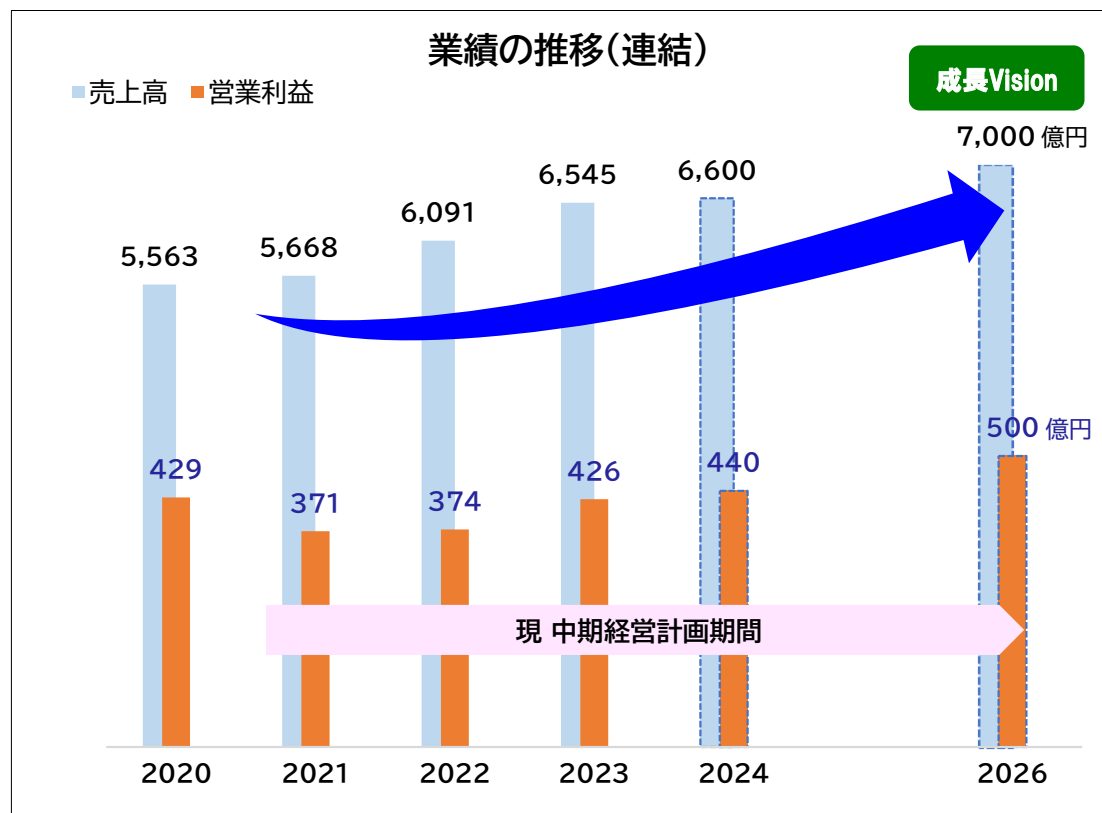
- 前半3年を振り返ると、当社の様々な取り組みが奏功したことに加え、コロナ禍からの社会経済活動の正常化、建設市場の需要の高まりなどもあり、業績は堅調に推移。
- 事業基盤を強化しながら、持続的成長・発展に向けて掲げた、2026年度成長Vision『連結7,000億円規模の経営』の実現に向けて、着実に歩みを進めている。

□ 既存事業の拡大

- 一般関連「一般電気・環境関連・情報通信・内装」の拡大
 - ✓ 時流に沿った受注拡大(データセンター、物流など)
 - ✓ 人財拡充、現場支援体制の構築
- 電力関連 電力をはじめとした社会インフラへの貢献
 - ✓ 電力安定供給のための施工力確保・施工体制構築
- 長期的な視点に立った海外事業の展開
 - ✓ 国際支店から国際事業本部への組織改正
 - ✓ 海外事業所、海外グループ会社の経営基盤の強化

□ 新分野への挑戦

- GX関連工事の拡大
 - ✓ 再エネ拡大に向けて、再生可能エネルギー-工事センター設立
 - ✓ FENの子会社化
 - ✓ 蓄電所関連工事に対応
- 新たなインフラ形態への対応
 - ✓ EMS-AIの展開



人財・働き方戦略

- 「人と心」を経営の根幹に置き、人財に軸足を置いた取り組みを展開。
- 成長Vision実現に向けて、人的資本の側面から、事業基盤の整備を進めることができた。

□ 人財拡充・育成

- 担い手確保に向けた高水準の人財採用の継続
 - ✓ 毎年400名超の新卒採用、多様な採用方法による通年採用の拡大 など
- 人財育成の強化
 - ✓ 教育インフラ整備に向けたきんでん学園の移転・建て替え計画に着手 など

□ 働き方改革の推進

- 労働時間削減に向けた仕組み作り
 - ✓ 現場支援チーム等、組織的な現場支援体制の構築
 - ✓ 様々なITツールの活用も含めた労働時間管理手法の展開、労働時間削減の意識付け など
- 生産性の向上
 - ✓ 現場管理業務の効率化に向けたICT活用 など
- 若手の離職防止や個人に寄り添った労務管理の実現
 - ✓ エンゲージメントサーベイの活用、その結果を踏まえた上司と部下の面談のルール化 など
- 4週8閉所の実現に向けた諸取り組み

□ 働きやすい職場環境の整備

- 快適性・生産性を求めた事業所・設備の新築・改修
 - ✓ 目指すべき事業所コンセプトの策定、事業所の総点検
 - ✓ それに基づく改修計画の実施 など

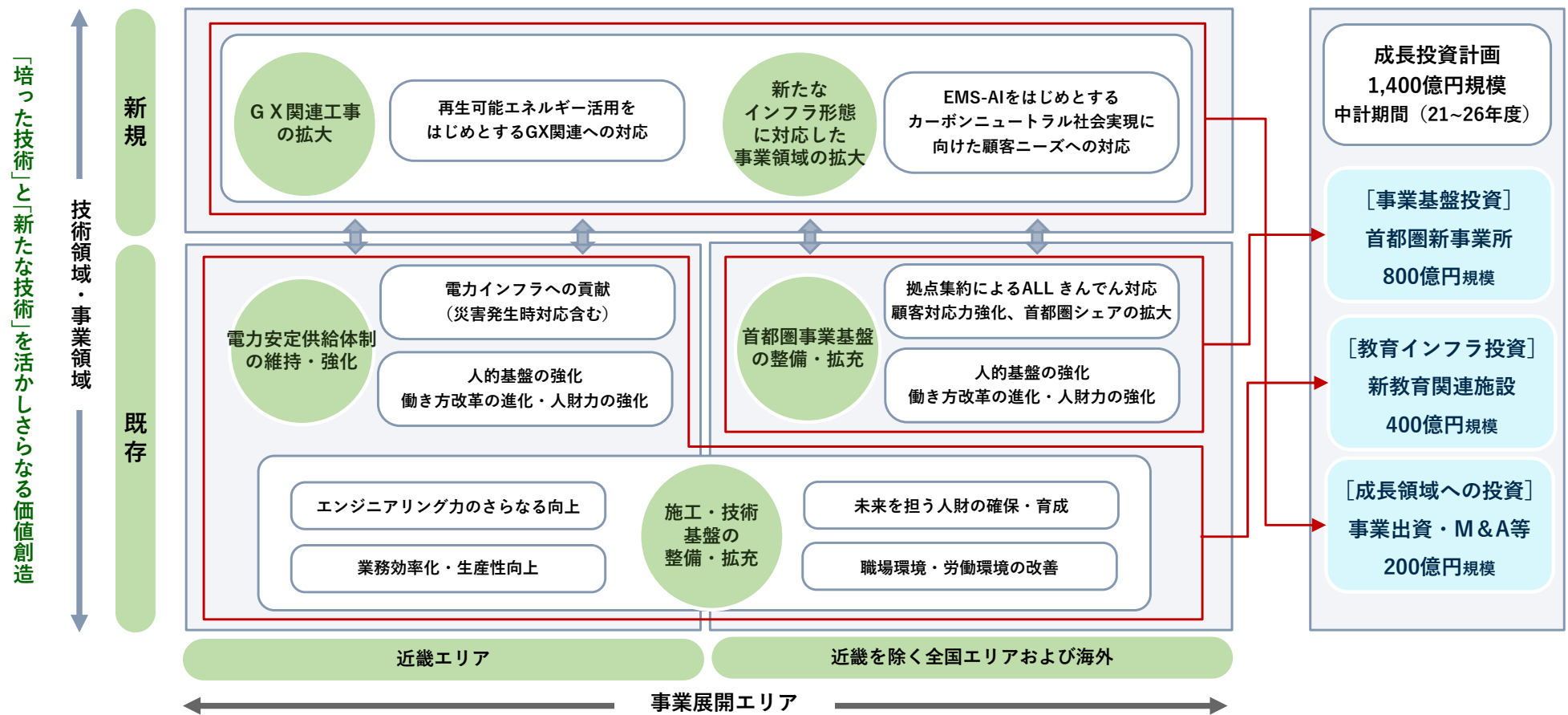
環境戦略

- カーボンニュートラル社会の実現に向けて、事業活動におけるCO2削減目標を設定し、エネルギーの使用抑制を進めてきた。
- 当社のCO2削減目標の設定
2030年度 単体Scope1・2 CO2排出量▲50%(2020年度比)
✓ 2022年度実績・・・▲10.2%
- カーボンニュートラル達成に向けての対策計画の策定・推進を目的として、「カーボンニュートラル推進委員会」を設立
✓ 具体的な取り組みとして、事業所ごとの目標を設定
以下の取り組みを推進
・車両のEV化・HV化 ・建物の省エネ化 ・再エネの自家消費 ・再エネ由来の電力購入 など
- TCFD提言への賛同、TCFDの枠組みに基づく情報の開示

長期的な視点に立った「人」への投資

中期経営計画における成長投資と企業価値向上への取り組み
[2024.1.31]

- 当社にとって、「人」は最も重要な経営資源であり財産。人財に関わる投資こそが成長投資の核となる。
- ・首都圏に一般工事の核となる新たな事業所を開設、市場規模の大きな首都圏でのシェアを拡大
- ・未来を担う人財の確保・育成のための教育インフラ投資により、中長期視点で施工・技術基盤を整備・拡充
- ・カーボンニュートラル社会の実現に向けたGX関連分野など、成長領域への投資を検討・実行



「地域密着強化」と「首都圏事業拡充」に向けたエリア体制の強化

当社の財務ポリシー「安定した財務基盤」を堅持しつつ、中期経営計画に基づき、当社の持続的成長・発展に必要となる「人財を軸とした成長投資」を実行することで、“きんでんブランドの向上”、中長期的なReturnの成長を図る。また、配当水準の段階的向上等のEquityの効率化により、株主資本コストを上回るROEを確保する

利益創出能力の強化(Return)

・ 首都圏事業基盤の整備・拡充

事業基盤投資

首都圏新事業所 : 800億円規模

・ 施工・技術基盤の整備・拡充
・ 電力安定供給体制の維持・強化

教育インフラ投資

新教育関連施設 : 400億円規模

・ GX関連工事の拡大
・ 新たなインフラ形態への対応

成長領域への投資

事業出資・M&A等 : 200億円規模

自己資本の効率化(Equity)

株
主
還
元

配当水準の段階的向上

今後の中計期間中(2023~2026年度)の総額において
配当性向**40%**を目安

財務状況等に応じた更なる株主還元
強化(機動的な自己株式取得)

今後の中計期間中(2023~2026年度)の総額において
総還元性向**50~60%**を目安

政策保有株式の縮減

2022年度保有数117銘柄を2026年度88銘柄へ縮減予定
(縮減額 約110億円 ※現時点の株価にて試算)

後半3年の考え方

環境変化

- 中期経営計画策定当初から取り巻く環境は大きく変化している
 - ✓ 人的資本やサステナビリティ、コーポレートガバナンス、資本効率を意識した経営、これらの高まり



基本的な考え方

- そのような環境変化においても、三方よしの考えの下、「人と心」を経営の根幹に置き、人財を軸とした成長投資により、当社が「社会のインフラを支える企業」として持続的成長・発展をしていくことが、全てのステークホルダーへの価値創出に繋がる。これがひいては「環境に優しい、持続可能な、より良い社会」の実現に寄与する。



- そのために、さらに戦略の強化を図り、後半に向けて、取り組みを深化させていく。
 - ✓ 長期的な視点に立った「人財を軸とした成長投資」
 - ✓ マルチステークホルダーとの価値共創
 - ✓ 「きんでんブランド」の認知・浸透

「きんでんブランド」の認知・浸透

- ブランドイメージを醸成し、広く正しく当社を知ってもらうために、当社の提供価値を表した「コーポレートスローガン・ステートメント」を制定。

コーポレートスローガン

未来を良くする工事中。

ステートメント

建物に明かりが灯る。空間に心地よい空気が流れる。情報がつながる。
さまざまに、あらゆる建物や空間に命を吹き込んでいく。

社会のインフラを支え、人々のあたりまえの暮らしを支えること。
担うのは、総合設備エンジニアリング企業「きんでん」です。

大切にしているのは、幅広い技術力と豊かな創造力。
安心できる暮らしを支える人。社会の可能性を開く人。希望ある未来を築く人。
人や社会への想いと情熱を、明日へのカタチに変え、
もっとエネルギーあふれる世の中をつくります。

社会のあたりまえをアップデートすれば、もっと安心に、もっと快適に。
暮らしのなかで、小さな感動も共有できるはず。

人、心、そして未来へ
わたしたちは、きんでんです。